化学教育 徒然草

理科・化学を体験する機会

ASAHARA Masahiro
浅原　雅浩
福井大学学術研究院 教育・人文社会系部門 教員養成領域　教授，
日本化学会近畿支部　化学教育協議会　委員

皆さんが化学への興味関心を持つきっかけは何だったでしょうか？　私が日本化学会学生会員として，春季年会で初めて発表させていただいた1992年は，第1回「青少年のための科学の祭典」が開催された年にあたります。この頃から，化学や理科に触れる機会が全国各地で増えていったように思います。近畿支部では，1995年以降継続的に，大阪地区で「子と親の楽しいかがく教室」が開催されています。以前，私が所属していた中国四国支部でも，1996年以降，毎年「おもしろワクワク化学の世界」が開催されています。学会本部でも2019年以降，春季年会で「小学生向け実験教室」が開催されています。

皆さん，子供の頃に化学や理科を体験する機会はありましたか？　私自身の子供の頃の記憶には全くありません。実は，参加者側としてではなく主催者側として「おもしろワクワク化学の世界―イン鳥取（2000）」の企画からフロアコーディネーターまでを経験したときが初めての機会でした。当時勤務していた鳥取大学工学部物質工学科の大学院生を中心に学科の教職員の方々と一緒に，地元百貨店の催事場で8月に約1週間，3回/日の化学実験ショーと15の体験ブースを維持し続けました。毎日会場に来てくれる子供たちがいたり，夏休み中なので？なぜか帰省した感じの大学生がよく来たり，子供より付き添いの保護者が一生懸命だったり，託児所風になったりと，日々段々と盛況になっていったように記憶しています。

ここ10年，大学の教養教育の授業として「地域科学コミュニケーション」を開講し，その成果発表および子供たちへの化学や理科の啓発の場として，公開講座「科学の広場」を毎年1回開催しています。地域で活躍中の科学コミュニケーターの皆さんから事例を聞き，数人でチームを組み，予備実験から始めて，実験テキストやショーのシナリオを作成します。公開講座当日には多くの子供たちを迎えて，科学啓発活動を実体験します。「化学の日」の缶バッジも毎年大活躍です。参加した子供たちも，講座を担当した学生の皆さんも，それぞれの学びと達成感があります。この活動が，次の化学に関わる職業を目指す人材育成につながればとも思いつつ継続しています。ちょっと大変なところもありますが，皆さんもいかがですか？

［連絡先］
910-8507 福井県福井市文京3-9-1（勤務先）